

令和7年度 アンサンブルホーム松川（共同生活援助）地域連携推進会議 報告

開催：令和7年10月15日16:15～

場所：アンサンブル松川第Ⅰ会議室

出席者：保護者会会長、利用者、松川町民生委員、松川町役場職員、法人グループホーム統括責任者、事務局

※管理者については体調不良のため欠席

議事1、共同生活援助の制度の説明

1. 共同生活援助の制度的役割の説明

- ・根拠法規：障害者総合支援法 第5条第18項に基づく「共同生活援助」。
- ・支援内容：主として入浴・排泄・食事等の日常生活上の援助（介助）、夜間対応、相談。「一人暮らし」への移行および定着に関する支援も含まれる。
- ・対象者：知的障害者に限らず、重症心身障害の方（伊那の第4ホーム）、重度自閉症の方（最重度の方々を受け入れ）、多様な障害を持つ人達の生活を支えている。

2. 高齢化への対応（65歳問題）

- ・以前は65歳になると介護保険制度への移行が法律で定められていたが、現在は本人の希望と事業所の同意があれば、障害福祉サービスを継続して利用できる。

3. 施設建設と資金調達の課題

- ・資金調達：グループホームの建設費は高騰している。一部補助金をいただくこともあるが、必ず借金をして建設せざるを得ない。返済原資は主に利用者の家賃（20年程のスパン）。初期の第1ホームの建設費が約3,000万円に対し、最新の第9ホームの建設費は約9,000万円を要した。新規の建設は大変負担が大きい。
- ・会計の分離：グループホーム会計と、日中事業の会計は、法律によって別にするよう決まっている。

議事2、アンサンブルホーム松川の紹介（支援と生活の様子）

1. 施設の現状と利用者の傾向

- ・松川、伊那、駒ヶ根に計21のグループホームがある。松川は9つのホームがあり、定員73名で現在59名が利用（入居）している。
- ・児童養護施設の入所者で養護学校を卒業した人が、毎年多数入居している。そういった人達の生活を丸ごと引き受けるケースが、増加傾向にある。
- ・松川の9つのホームは、町の中に分散している。

2. 支援について（自立訓練と金銭管理）

- ・自立ルームでの訓練：第8ホームに自立ルーム（ミニキッチン、バストイレ付き）を2室設置し、アパート暮らしを希望する利用者向けの訓練を行っている。期間は1年間としている。訓練後、アパートで生活してもホームに戻ってくるケースが多い。

出席した利用者の経験の発表：18年間グループホームを利用し、自立ルームの訓練を経てアパートで一人暮らしを経験した。しかし「寒い」「寂しい」「掃除やゴミ出しの困難さ」などから1年半でグループホームに戻った。喜んで戻ってきた。この経験から、「友達がいること」「一人ぼっちじゃないこと」が、生活する上で大切だと感じた。

- ・金銭管理：利用者の貯金は基本的に本人のものであり、職員は「買っちゃダメ」とは言わない。高額なものも本人がどうしても欲しいものはお金を貯めて購入している。「お金は使

って失敗もしながら使い方を覚える」という教育的視点を重視しており、失敗を恐れて制限を加えることはしない。

3. 日常の生活支援と工夫

- ・ 食事の提供:1 か所で食事の下ごしらえや調理を行い、各ホームに運搬している。
- ・ 調理実習: 月曜日の夕食は、各ホームの利用者が希望する献立で、職員と一緒に買い物から調理までを行う。
- ・ 個別の支援: 掃除などの生活スキルは、利用者の性格や習熟度に合わせて職員が個別に工夫し教えている。
- ・ 交流活動: 第7ホームの多目的スペースで、各ホームの希望者が集まって「スナック」（飲み会）を不定期に実施。

4. 支援の難しさ

- ・ 重度自閉症など支援の難しい利用者も積極的に受け入れているため、現場の職員は日々試行し（大変な）苦勞をしている。
- ・ 支援は教育的な意味合いも含まれるため、職員は利用者一人一人に粘り強く関わっている。

議事 3、意見交換

- ・ 法人の事業展開について：長野県内の重症心身障害児の親御さん達の会からの強い要望を受け、塩尻に重症心身障害者向けの昼間施設（生活介護）を立ち上げることを決定。将来的にはグループホームも併設する。
- ・ 地域交流スペースの活用について：第7ホームの多目的スペースは、地域の方の利用も歓迎している。出席者に活用を呼びかけた。
- ・ アンサンブルホーム松川の事業展開について：共同生活援助は、知的障害を持つ人の親御さんが絶望することなく、障害を持つ本人が仲間の中で、楽しくやりがいを感じながら生きていく場所であり、今後も地域の中で安心して暮らせるよう、事業を継続し、必要に応じて拡大していく。

グループホームの見学

会議の後、参加者にグループホームを案内し、施設の状況を直接確認してもらった。ただし、利用者は殆どの方が出かけていて、直接話を聞く事はできなかった。